

# 徳島小松島港における防災関係の検討について

## 災害時徳島小松島港活用方策検討関係者会議

徳島小松島港において、大規模地震などが生じた際に、港湾関係者と相互に協力し、港の物流機能の早期回復、緊急物資受け入れ拠点として活用させるために、今年度関係者会議を設置しました。

災害時における徳島小松島港の有効活用に関する計画について、来年度中の策定を目指し関係者会議にて検討を実施していきます。



※徳島小松島港は、四国と関東、近畿を結ぶ物流の重要な拠点であるほか、製紙、化学工業等の徳島県の産業を支える重要なインフラであるとともに、韓国釜山とのコンテナ定期航路外貿拠点としての役割を担っております。

しかし、南海トラフの巨大地震のような大規模災害が発生し、長期にわたり港の機能が低下すると、経済活動が停滞し、地域全体の衰退を招くおそれがあるほか、ライフライン復旧に関わる物資等の緊急輸送基盤としての役割が損なわれることとなります。

(第1回関係者会議 平成24年10月30日開催)

## 堤外地に働く人たち等を対象とした避難対策ワーキンググループ

徳島小松島港にあるマリンピア沖洲は、堤内との連絡路に限りがある出島のような構造です。

また、労働人口も多いことから東日本大震災で徳島県内に津波警報が発令された際には、避難しようとする車で渋滞が発生しました（新聞記事参照）。

このような背景から、マリンピア沖洲をモデルケースとし避難計画(案)の策定に向けた検討を国、徳島県、徳島市、マリンピア沖洲における港湾関係事業者により実施していきます。



(平成23年5月19日徳島新聞)

東日本大震災の際は、3本の連絡道路のうち、防潮扉閉鎖により2本が通行止めに。



(第1回ワーキンググループ 平成24年10月11日開催)